

校長先生の初恋物語

第24話 きょうぼうなクジャク

5年生が担当しているクジャクの飼育は、命がけでした。だって、そのクジャクはとてもきょうぼうで、飼育小屋に入ってくる子供たちに時々おそいかかってくるからです。とっくんも、当番が回ってきたときに、くじゃくに耳をかじられたことがあります。どの子も一度くらいはそういう目にあっていました。先生に「クジャクの飼育は危ない。」とうったえたことがあります。先生達は「がんばりなさい。」と無責任なことしか言いません。「みんながくじゃくをいじめてるんじゃないの。」と、ぎゃくにしかられてしまいます。

アマーラさんの班が、クジャクの当番になった時、アマーラさんは、おそるおそるクジャク小屋に入っていくみんなとはちがう行動を取ったらしいです。小屋の中に入らず、ただじーっと、クジャクを見ていたそうです。ふしぎなのは、いつもだったら、小屋の中に入ってくる子供をおそってくるクジャクが、アマーラさんの方に近づいて、目と目を合わせて静かにしていたそうです。ですから、この日の当番の子は、だれもクジャクのひがいをうけず、小屋のそうじが簡単にできたそうです。

当番の仕事が全部終わっても、アマーラさんは、教室にもどりませんでした。当番の仕事をするのは昼休みです。そのあと、そうじの時間になって、5時間目になるのですが、アマーラさんはもどってきませんでした。

によろひげ先生が言いました。「あれっ？アマーラさんがいないな。」同じ飼育当番の子供たちが、アマーラさんがずっとクジャク小屋にいることを伝えました。によろひげ先生は授業を自習にして、アマーラさんを呼びに行きました。そのあと、によろひげ先生ももどってきませんでした。

しばらくして、教頭先生が教室にきました。「によろひげ先生と、アマーラさんは、病院に行きました。かわり



に教頭先生が授業の続きをします。」

と言いました。みんなざわざわしました。「アマーラさんが、クジャクにやられて、けがでもしたんじゃないかな。」でも、教頭先生が続けて言ったことは、ちがっていました。

「どうやら、クジャクが頭の上をけがしていたみたいだ。そのことに、アマーラさんが気がついたらしい。だから、によろひげ先生とアマーラさんで、動物病院に行っている。」

という話でした。おどろきは、そのクジャクを、アマーラさんがだっこして、によろひげ先生が運転する車でやっているってこと。教頭先生がさらに言いました。

「他の先生がクジャクをだっこしようとする、クジャクが大暴れするんだけど、アマーラさんがだっこすると、クジャクがすごくおとなしいんだ。だから、アマーラさんに行ってもらってます。」

つまり、ガブといっしょです。アマーラさんは、人間以外の動物と、話ができるってことです。みんな近くの人とひそひそ話を始めました。

「アマーラさんって、気持ち悪くない？」

「アマーラさんって、何者なの？」

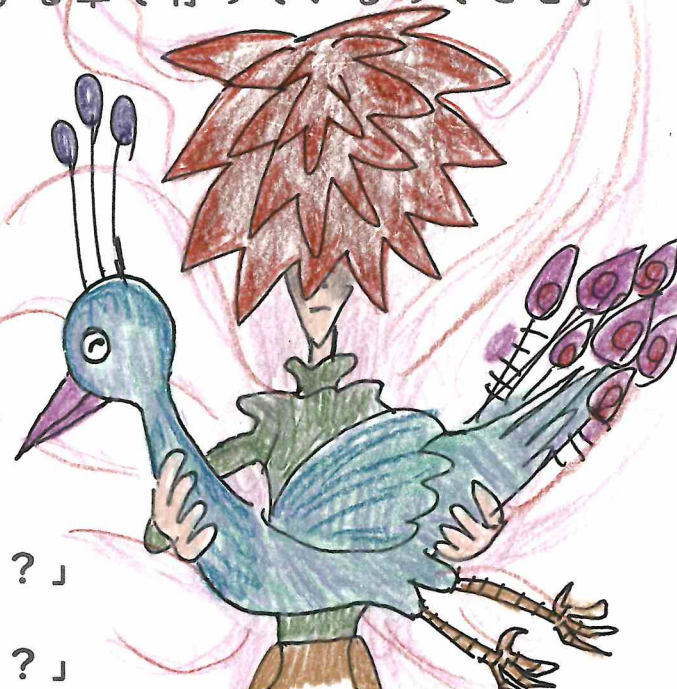
「アマーラさん、なんだかこわくない？」

クジャクのけがのことは、だれも気づかなかったのに、アマーラさんだけには分かったこと。そして、クジャクも、アマーラさんだけは、おそいかかったりしないこと。ガブのこともそうです。ガブは、みんなが困っているきょうぼうな野良犬です。そのガブも、アマーラさんとは仲良くするんです。

「アマーラさんは、人間じゃないのかもよ。」

ある子がぼそと言ったその言葉で、教室は静まりかえってしまいました。とっくんは、あのドッジボール対決で見たUF0のことが頭からはなれませんでした。

クジャクを助けたといういい話だったのに、アマーラさんは、このあと、かわいそうなことになってしまうのです。つづく



次回予告



孤独なアマーラさん

